

# 阿武隈山地・夏井川・背戸峨廊

T野

メンバー：T野・D山・T山・A原

2024年6月22日



1泊で尾瀬の大赤沢を予定していたが、日曜日の予報が芳しくないため、土曜日に日帰りで行ける福島県の阿武隈山地にある背戸峨廊に転進した。予想以上に素晴らしい渓で、登れる10mクラスの滝が連続して現れ、渓谷美も堪能でき、日帰りの沢としては秀逸でした。では、報告です。



前夜、総武線平井駅を22:00に出発。福島県というと遠く感じるかもしれないが、常磐道を走ること2時間ちょっと、帰りの渋滞などを考えれば、丹沢辺りよりずっと行きやすいと感じるのは僕だけだろうか？この日は「道の駅 よつくら港」の軒先を借りる。暗いのは良いが、国道6号線を通るトラックがうるさいのと、トイレが若干遠いのが欠点か。

6/22

5:30起床し、コンビニで買い出し後、背戸峨廊の最寄り駅、陸羽東線の江田駅を目指す。江田駅でのステビが可能かどうか確認したが、トイレも待合室もなく車を停める場所もないので不可。江田駅から背戸峨廊方面の道に入るとすぐに(2~3分)広い駐車スペースとトイレがあり、ここに車をデポする。前夜、ここまで入ってしまうのも一考である。



- 写真上 背戸峨廊の入口にある碑。
- 写真中 すぐにゴルジュとなる。
- 写真下 岩盤が発達したナメもあり、遊行感上々！！

背戸峨廊は、渓谷沿いに遊歩道があり、それなりにハイカーや観光客



で賑わっていたようだが、2019年の台風で遊歩道が崩れて通行不能になり、静寂な溪に戻ったようだ。このことは我々沢屋にとって、むしろ好都合なことであった。というのも、ここは僕的には、以前から気になってはいたが、遊歩道沿いということが、今一つ乗り気にならない理由だったのだ。それがなくなった今、いつ行こうかと手ぐすね引いて待っていたわけだが、今回はちょうど良い機会となり計画の運びとなった。



■写真上 トツカケの滝、右の写真はトツカケの滝の登攀写真！！

■写真中 釜淵の迫力のある2段滝。

■写真下 片鞍の滝に取付くがここが大変。

7:15 準備を整えて駐車場を出発、すぐに溪に降りる踏み跡があり入溪。思ったより水量もあり、遡行感も良い。ところどころに遊歩道時代の遺

物もあるが、それほど気にならない。今回は、以前に遡行している記録を見てフェルト底の靴



で来たが、溪はヌメッていて滑りやすくフエルトは正解だった。側壁の高いゴルジュや、岩盤が発達したナメの小滝などを楽しみながら歩いていくと、20分ほどで、前方に大きな滝が現れた。20mクラスの大滝、「トッカケの滝」である。早くもこの溪の主のお出ましだ。遠目には登れそうに見えないが、近づいてみると思っ

たより傾斜も緩く直登可能である。ロープを出して右壁を登る。木の根などでプロテクションも取れてストレスを感じることなく登ることができた。3級一位かな？

今回ここで会装備のトランシーバーを使用してみた。距離が長く、滝の音で声が聞こえない場所だったが、トランシーバーを使用することで非常にクリアに声が聞こえて非常に有効なことが分かった。

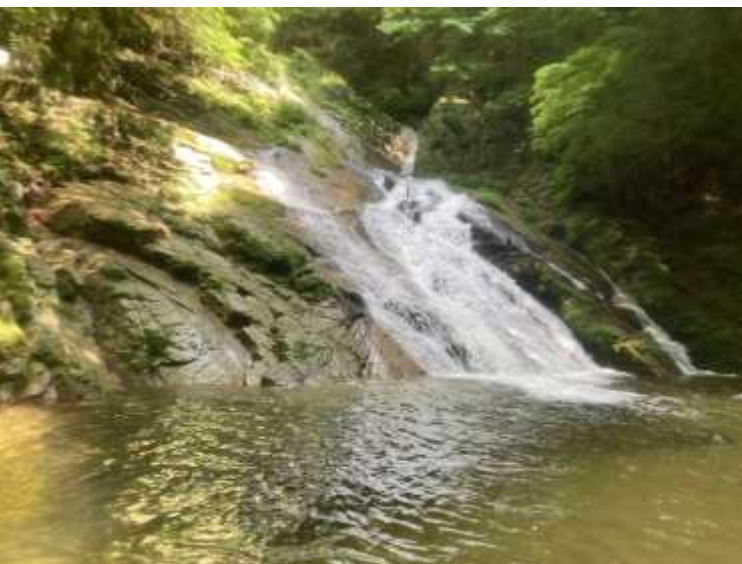


■写真左 片鞍の滝を快適にシャワークライミング！！

■写真上右 片鞍の滝の上はゴルジュとなる。

■写真中 ゴルジュを抜けると穏やかなナメ！！

■写真下 大きなナメ滝、龍門滝、上部は名のごとくジェット水流！！



トッカケの滝を越えるとすぐに現れるのが、側壁に囲まれたダイナミックな2段20m滝。見た目、下部は問題なく登れそうだが上部がよくわからない。記録だと問題なく登っているようなので、ここもロープを引いて取付く。果たして見えない部



分は左壁が難なく登ることができてここも快適！！「大きな滝が快適に直登できて楽しい溪だね！！」とついついモチベーションもアップする。ここを登ったところは遊歩道のように「釜ん淵」と書かれた標識が立っていた。

ここからしばらく穏やかな溪相となるが20分ほど歩くと末広がりの滝「片鞍の滝」が現れる。見た目は優雅だが、この滝も10mクラスの立派な滝だ。再びロープを引く。釜を胸まで浸かって水流と水流の間の岩壁に取付こうとするが、最初の一步がハイステップで足を上げられず苦戦。A原さんに足を支えてもらって何とか登れば、あとは快適なシャワーライミング。最後は左の水流沿いを登って終了。今まで登った滝は全て3級を越えない、素晴らしいではないか！！

■写真上左 龍門滝下部を登る。

■写真上右 龍門滝上部のジェット水流をハツル。

■写真中 深い釜を持つナメ小滝、こんな感じの滝も多い。

■写真下 小滝の側壁をハツル。

片鞍の滝の上はちょっとしたゴルジュになっていて、きわどいハツリで越える。落ちてでもドボンするだけなのでここも楽しいところだ。このゴルジュを越えると、溪は風光明媚な日本庭園風の美しい溪相となり、やがてスケールの大きなナメ滝が現れ、我々の目を楽しませてくれる。「龍門滝」と呼ばれているらしい。ここは左側を難なく登ることができる。下部は優雅なナメ滝だが、上部はまさに名前の通り、ジェット水流が龍のように落ちる。

その後も美しい溪相が続き、深い釜のナメ滝が多く、取付くには微妙なハツリが楽しめる。このナメ滝地帯を過ぎると暫く溪は平凡になる。淡々と歩いていくと左側に長い梯子がかかる



5mくらいの滝が現れる。ここは確か左側から登ったような気がする。そして、再び深い釜とナメ小滝地帯、ホント楽しい渓だ！！

次々突破していくと、再び10mクラスの大滝が・・・。

「片鞍の滝」に似た末広りの滝だ。左側を登れそうなのでロープを引いて登る。下部は問題なかったが、徐々に傾斜が急になりシャワーを浴びながら登る。中間部にかなりくたびれたシュリングのついた残置ハーケンがあり、無いよりマシとランニングを取ってさらに登ると、僕の苦手なハイステップで登らなければならない箇所があり、リスを見つけてハーケンを打ち、ランニングを取ってここを越す。さらに上部は左から岩が覆いかぶさり、狭い流水沿いを登るのだが、ここも狭い場所をハイステップで登らねばならず、良いホールドがなく苦戦する。一か八かで万が一落ちたら、先ほどのハーケンを止まるだろうか？いやいや、効いているかどうかは怪しいところだ。ということで一歩が出ずに時間がかかる。岩に引っかかって邪魔なのでザックを下に落とし、空身になって手がかりを求めて右往左往していると、水流の中に左手がしっかりかかるホールドを発見！！何とか身体を引き上げて終了！！僕にとっては、ここがこの溪の核心部だった。ここは3級+位はあると思う。



■写真上 末広りの名もなき核心の滝！！

■写真中 僕にとっては厳しい登攀だった！！

■写真下 鹿の子滝



この後、二条の小滝を過ぎると再び10mクラスの滝「鹿の子滝」が現れる。ここは悪そうで、先ほど苦戦したこともあって気持ちが消極的になり、長い梯子を利用して初めて高巻く。高巻きながらよく観察すると、下部は行けそうだが上部がかなり悪そうだ。行かないで良かったが、トップロープなら行ってみたいところである。

ここを越えて暫く行くと終了点の「三連の滝」が直登不能の直瀑で有終の美を飾る。

ここで脱渓して、溪からひと登りしたところで「早回りコース」と「ゆっくりコース」に分かれる。我々は「早回りコース」をチョイス。一般登山道にしては少し荒れているが、沢屋には問題ない程度の踏み跡を辿る。脱渓から駐車場まで約1時間20分、下山も楽。

実に楽しい溪であった。手軽な割に達成感もあり、登攀やハーケン打ちの練習にも最適で、暑ければ泳



ぎも楽しめるので、自信をもってお勧めしたい溪だ。皆さん、ぜひ行ってみてください！！

下山後の温泉は、あのハワイアンズのある湯元温泉の「さはこの湯」(¥300)、道後温泉を模した雰囲気のある温泉らしい温泉、ただし石鹸、シャンプーはなし、風呂は温泉らしく結構熱め。建物はなかなか情緒があった。食事処はなかなか適所を見つけられず、結局、友部SAにて。大した渋滞にも合わず順調に帰宅。良い1日だった。

最後に、お付き合いいただきましたメンバーの皆さん、有難うございました。また宜しくお願いします。

■写真上 鹿の子滝の高巻きは遊歩道の名残の梯子を登る。

■写真中 終了点にある三連の滝。

■写真下 今日の温泉は湯元温泉の「さはこの湯」。

#### ■コースタイム

駐車場 (7:15) ~ (7:39) トツカケの滝 (8:20) ~ (8:20) 釜淵の2段20m滝 (8:48) ~ (9:09) 片鞍の滝 (9:45) ~ (9:56) 龍門滝 (10:00) ~

(10:55) 末広がり10m滝 (11:30) ~ (11:41) 鹿の子滝 ~ (12:05) 三連の滝 (12:30) ~ (13:48) 駐車場

